



発行所：みんなで政治を考える会  
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2  
ケイハンシテイビル601  
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310  
発行人：二ノ湯 智  
国会事務所  
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1  
参議院議員会館632号室  
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはくくみ、平和を希望する言葉です。  
題字：栢木寛照

# えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)  
第3種郵便物認可 平成2年1月18日  
口 座 01000-4-62360

平成20年 **6** 月号  
No.204

京都の智恵を日本に活かす。  
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

## 参議院、福田首相問責決議案を可決 与党、内閣信任決議案で対抗



問責決議案の趣旨説明をする民主党輿石参議院議員会長

道洞爺湖でサミット(主要国首脳会議)が開催される。日本の首相は議長国として指導力を発揮しなければならない。首相を傷たけにして送り出すとは、サミットの成功も国益も国家の尊厳も考えない、全く未熟で無責任な民主党である。

理解に苦しむ民主の国会対策  
平穩に終わりを迎えると思われた通常国会。会期末の6月11日、民主、社民、国民新は共同で、福田首相問責決議案を提出した。道路特定財源暫定税率の再議決の際、民主党は福田首相に対する問責決議案を提出する構えを見せていたが、法的拘束力がなく、衆議院の解散総選挙に追い込むことが出来ないと判断、断念した。ところが、後期高齢者医療制度の廃止法案が参議院で可決され、沖縄県議会選挙で民主党が大幅に躍進したことで強気になり、再度、問責決議案問題が浮上した。いずれにしても出すと言ったり、引っ込みたり、民主党の戦術、戦略は克利、党略、政局が先行して全く理解に苦しむ。問責決議案の可決に対抗して、6月12日、与党は衆議院で福田内閣信任決議案を通し、福田内閣を信任した。7月には北海道

### 恒心

★第4回アフリカ開発会議開催を記念してNHK衛星放送で、連日にわたり25時間の規模で、関連番組を放送していた。見ごたえのある番組が多かった。国造りに取り組んでいるルワンダの女性達の活躍の映像もあったが、多くは部族間の戦乱、貧困、飢餓、エイズ、地球温暖化に悩むアフリカの姿で、改めてアフリカの人々の厳しい、過酷な生活を思い知らされた。★アフリカ会議終了後、ローマで世界食糧サミットが開かれ、世界の食糧問題が話し合われた。食糧生産国の輸出規制、バイオ燃料の増産、原油の価格高騰、中国、インドなどの食糧消費の増大によって、食糧価格が異常に高くなり、それが又、アフリカ諸国の食糧難に拍車がかかって、多くの人々が飢餓状態に追いやられている。★福田首相は備蓄米30万トンのアフリカを中心に緊急援助することを表明したが、それがどの程度、困っているアフリカの人々の食糧難解消の手助けになるのか。それより先ず援助米が必ず末端の国民にまで配給されるのか、政府関係者、軍部に賄賂が横行しているだけに、気がかりな点である。★言うまでもなく、アフリカ問題の解決策は、アフリカ諸国が先進国の援助に、過度に依存することなく、一日も早く、自らの足で、歩むことが出来る国家を目指すことである。そのために日本や先進国がアフリカ経済の自立に向けて何をすべきか、何が一番良い方法か考える必要がある。アフリカの発展、平和は周りに回って世界の利益になるからである。

### 衆議院で地域力再生機構法案を審議 二ノ湯政務官、答弁に立つ

地方自治体の第3セクターや地場企業を救済するための地域力再生機構法が、通常国会に提出され、衆議院内閣委員会と審議されていた。5月16日、二ノ湯政務官は質問者・民主党の西村智奈美議員(新潟1区)の答弁者として、衆議院内閣委員会から出席を求められた。西村議員からは、「地方財政の悪化の要因は、バブル経済崩壊後の経済立て直しのために、地方自治体にも協力を要請した国の責任が大きいと思う。地域力再生機構は地方財政の建て直しに果たして有効な役割を果たすことが出来るか。支援対象となる第3セクターの情報開示がぜひとも必要であると考えるが、京都市会議長、そして全国市議会議長会会長の経験者として、率直にどう思うか」と尋ねられ

### 衆議院外務委員会 中国四川への緊急援助隊で質疑

中国四川省で起きた大地震による被災地に、日本の国際緊急援助隊が派遣された。大地震発生後、中国政府から派遣要請があれば、直ちに行動できるように態勢を整えていたが、中国側の事情で、要請があったのは地震発生から4日後であった。要請から3時間後には成田空港に集合、現地に向かった。消防庁を中心

た。二ノ湯政務官は「地域力再生機構によつて、地方経済が再生するか、自治体の3セクはじめ、公益法人が再生するかについては、私は厳しい見方をしています。そう簡単に上手くいくとは思いません。3セクが地方議会の審議の対象外にあつたことは良くないことで、自治体が債務保証をしている以上、出来る限り情報公開して、議会の審議対象、監視対象にするべきだと思います」と答弁した。西村議員の質問は想定問答集にない予定外の質問が多く、二ノ湯政務官も最初は戸惑ったが、徐々に落ち着いて日頃の持論を述べた。よほど自信のある答弁者以外、委員会での答弁は、失敗を恐れて、官僚が作った答弁書を読み上げるのが慣例になっている。政務官は政治家である。政治家は立て板に水の如く話せなくても、自分の言葉で、自らの考えで答弁することが大事ではないだろうか。

とする緊急援助隊は悪い条件の下、良く頑張ったが、結果的には一人の生存者も救出できなかった。それでも日本の援助隊の活躍は現地の人々、中国政府関係者から、評価され、大変感謝された。5月21日開かれた衆議院外務委員会で、民主党の武正公一議員(埼玉1区)がこの問題を、取り上げた。武正議員は「緊急援助隊には本当に大変な働きをさせていただいた。心から敬意を表する次第です。今回の緊急援助隊の派遣についてのご感想、

混乱と飢えが続くアフリカ大陸の経済発展を図り、平和と安定の実現を目指す第4回アフリカ開発会議(ティカド4)が、5月28日〜30日の3日間、横浜市で開催された。この国際会議は、日本政府、国連、国連開発計画、世界銀行の共同開催で5年に一度、日本で開かれることになつている。共同開催とはいえ日本政府の主催と言つてよい。公式な政府間会議が展開されている裏側では、活発な議員外交が繰り広げられた。参議院外交調査会(矢野哲朗会長)では、矢野会長が横浜の宿舎に泊まり込んで、各国首脳と精力的に議員外交を行った。二ノ湯議員も国会の日程を縫って、首脳との朝食会、会合、晩餐会に出席した。25日のレソト王国のモシシリ首相の昼食会、29日には、ケニアのケンジョン電力会社総裁との朝食会、シエ

### アフリカ開発会議 夜遅くまで各国首脳と懇談

ラレオネ共和国・コロマ大統領、ガンヌーシ・チュニジア首相、エル・ファシ・モロツコ首相との懇談、ラヴァル・マナナ・マダガスカル大統領主催のレセプション、ケブーザ・モザンビーク大統領との晩餐会と夜遅くまで各国政府関係者と意見を交わした。チュニジアのハシェッド駐日大使から風光明媚な歴史都市カルタゴと京都市との間には非友好盟約を結びたいとの提案がなされた。モザンビーク大統領との晩餐会では、2015年に開かれるポトイスカウトの世界ジャンボリーの開催地を決める会合が近く行われるが日本開催が決まれば山口県になるので、出席していた岸信夫参議院議員(山口選挙区・安倍晋三氏の弟)はモザンビークの1票を是非日本へと陳情した。それに対して大統領は日本を支持することに對して口約束をした。

ご所見を伺いたい」と尋ねた。二ノ湯政務官は「発生直後に行けば、仮定の話ですが、何名かの人命が救助できたのではないかと言われています。しかし、たとえ一人の生存者も救出出来なかったとしても、テレビ等で中国政府が日本の緊急援助隊の活躍に深い敬意と感謝の気持を表していることは、目に見えた国際的な救助活動だったのではないかと思えます」と今回の消防庁を中心とする国際緊急援助隊の働きを称えた。



ケブーザ・モザンビーク大統領と

**忙しい政務官の仕事**

5、6月は各種団体の総会シーズン。総務省関係の関連団体は数が多く、大臣、副大臣、そして政務官と手分けして会合に出席する。二ノ湯政務官も大臣祝辞の代読、政務官としての祝辞と結構忙しい日々を送った。

**子ども農山漁村  
交流プロジェクト**

わが国は、今急速に少子高齢化が進んでいる。日本の将来を支える次世代の育成は最重要課題となっている。地方と都市の格差は正も差し迫った課題であり、福田内閣は「地方の元気が日本の元気」を基本理念に地方の活性化に取り組んでいる。このような中、未来を担う子供た

ちが、農山漁村において自然体験を行うことは教育上、大変いい効果が期待される。一方、子供の受け入れを通じて、農山漁村の活性化にも大いに役立つのではないかと思われる。総務省、文部科学省、農林水産省および地方団体が連携して、今年から「子ども農山漁村交流プロジェクト」が始まった。5年後には全国の全ての小学校において、5年生を対象に4泊5日の日程で宿泊体験をさせる予定である。このプロジェクトが成功するには保護者、学校関係者、受け入れ自治体の協力が是非とも必要である。5月19日、農山漁村交流プロジェクトのスタートを記念して、発足記念シンポジウムが行われ、二ノ湯政務官は総務省を代表して祝辞を述べた。

**全国自治体病院協議会  
定時総会**

自治体病院は地域の住民に身近な医療機関として、救急医療や高度な医療を担う基幹病院あるいは中核的病院として、大きな役割を果たしている。しかし、全国自治体病院の4分の3が赤字となるなど、厳しい経営環境にある。夕張市のかつての市民病院を見るまでもなく、破綻寸前の病院も少なくない。ほとんどの自治体では自治体病院に、多額の予算を繰り入れており、自治体財政をかなり圧迫している。もし、病院の稼働率が3年連続で70%を切るようなことがあれば、病院は診療所または老人保

健施設へ転換しなければならない。各自治体病院の開設者、院長、管理者の経営責任は非常に重い。去る5月29日、全国自治体病院連絡協議会定時総会が開かれ、二ノ湯政務官は祝辞を述べ、地域医療の発展と健全経営に貢献した病院に対して総務大臣の表彰状を授与した。



**第3回「環境フォーラム」  
ゴミ不法投棄防止を  
話し合う**

今日地球温暖化をはじめ環境問題は国際的な広がりを見せている。7月の北海道洞爺湖サミットでも地球温暖化の防止が大きなテーマとなっており、環境問題は国民的に大きな関心事となっている。全国市長会では、平成18年から、5月30日(ゴミゼロの日)～6月5日(環境の日)までの1週間を「ゴミ不法投棄防止

ウィーク」と定め、ゴミの不法投棄をなくすために立ち上がっている。今では全国約90%の自治体に参加し、警察、市民団体などの協力を得て、監視活動、啓発運動を展開した結果、ゴミの不法投棄が非常に少なくなり、大きな成果を挙げている。6月3日、全国都市会館で、多くの市長、自治体関係者が参加して、全国市長会主催の「第3回環境フォーラム」が開催された。二ノ湯政務官は来賓として祝辞を述べた。

**インターネット協会  
定時総会**

インターネットを取り巻く環境は目まぐるしく変化している。光ファイバーに代表されるブロードバンドの利用が普及し、今やインターネットは生活にとって不可欠な存在である。しかし、迷惑、有害メールの送信など影の部分への対応も課題である。5月30日、「特定電子メールの送信の適正化等に関する法案」、いわゆる迷惑メール法の改正案が国会で成立した。この法案の改正過程で、JAIPA(日本インターネットプロバイダー協会)の大きな協力があった。JAIPAは、子供たちが、インターネットを安心、安全に利用するために、保護者、教職員向けの講座を開設、講師を派遣するなど、インターネット普及の縁の下の働きをしている。6月5日、協会の平成20年定時総会・懇親会が開かれ、二ノ湯政務官は来賓として招かれ、祝辞を述べた。

**第115回  
全国人事委員会連合会総会**

6月6日、都道府県、政令指定都市、そして東京都特別区の人事委員が出席して全国人事委員会連合会の総会が東京都庁の大会議室で行われた。昭和26年に地方公務員法が施行されて以来、公平な人事行政によって、地方自治の発展に、人事委員会は大きな役割を果たしてきた。最近、一部の自治体の職員による不祥事が発覚、全国の自治体で同様なことが行われているという印象を持たれており、国民、市民の公務員を見る目は厳しくなっている。そのためにも、中立で第三者の立場の人事委員会の活躍が期待される。二ノ湯政務官は来賓として招かれ、祝辞を述べた後、長年人事委員として尽力された方に総務大臣の表彰状を授与した。



香美町小代区神場で

# 自民党 過疎対策特別委員会

## 丹波篠山の過疎集落を視察

地域間格差の解消は、政治の大きな課題である。過去37年間、過疎地域自立促進特別措置法(過疎法)によって、全国の過疎地域は、上水、下水、道路など生活の基盤整備は大きく前進した。しかし、人口減少には歯止めがからず、高齢化が進行し、日常の生活機能さえ失われつつある。このままの状態が進めば遅かれ、早かれ集落が維持できず、消滅の危機が迫っている。自民党の過疎対策特別委員会(山口俊一委員長)では、全国各地の過疎集落を視察している。5月26日、兵庫県香美町小代区神場、養父市高中地区の2カ所を訪れた。小代区神場は22世帯、51人、高齢化率68・6%の豪雪地帯。養父市高中は14世帯、28人、高齢化

率82・14%とまさにお年寄りの集落。高中地区は、昔からそばを栽培してきた。そばを利用して、女性と高齢者で食堂の経営を始め、味ももてなしも良いと評判が高く、繁盛している。視察を終えた後、養父市の「但馬長寿の郷」で、兵庫県、京都府の過疎地域をかかえる自治体関係者と意見交換をした。過疎地域に共通する要望は、医師の確保、住民の足の確保、地デジ対策、人口減少防止、鳥獣駆除など。自治体関係者はこれらの問題解決のために、2年後、現在の過疎法に代わって新しく制定される過疎法に、地方の切実な声をぜひ反映させてもらいたいと、出席の国会議員に強く訴えた。

# 身辺雑記

一、ミャンマーのサイクロンによる被害は甚大で、10万人以上の死者・行方不明者が出た。多くの人が家を失い、医療品や食べる物さえなく、苦しみにあえいでいる。それでも軍事政権は外国の援助を拒み続けた。国民の命よりも政権維持が大事だとは、不幸な国家である。

一、わがマンションで女子中学生の言葉が気になった。「飯を喰いに行こうか」と話していたので、注意をしたら、彼女たち曰く、「男の子も同じように言っているのに、何が悪い」と喰って掛かってきた。男女平等教育がもたらした弊害である。

一、大相撲の白鵬と朝青龍の戦い。勝負は朝青龍に決まったが、感情剥き出しでの土俵上の小競り合い。相撲史上そんなことがあったのか、なかったのか知らないが、天下の横綱土士の争い。全くお粗末極まりない。相撲道も地に墜ちた。

一、秋葉原の歩行者天国が通り魔殺人によって一瞬にして修羅場となった。日曜日にショッピングを楽しんでいた、全く罪のない人が突然死に追いやられ、無残に夢や希望が断たれた。絶対に許せない極悪非道な殺人である。犯人には少しの弁解の余地はない。

## 「新政経懇話会」入会のお祝い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会 年会費 1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228

## 「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は毎月一回の発行です。

毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい

年間購読料 1200円

郵便振替口座 01000-4-62360

口座名: みんなで政治を考える会

— お問い合わせ先 —

二ノ湯さとし事務所

電話 075-315-2228

ホームページを開設いたしました

<http://www.ninoyusatoshi.com>

## 第182回 みんなで歩こう湯歩会

- ・日 時: 6月29日(日) (小雨決行)
  - ・集合時刻: 午前9時(時間厳守)
  - ・集合場所: 京都産業会館前(四条烏丸西入)
  - ・コース: 室町通→六角堂→東洞院通→錦通→錦天神→誓願寺→寺町通→梨木神社→京都御所内→閑院宮邸前解散
  - ・梅雨の時季にあたり、一部アーケードのあるところを取り入れています
  - ・町中の社寺にも立ち寄ります。是非ご参加ください。
- (当日) ☎090-1956-7460

# 歩くことは

# 健康の基本

## 第181回 みんなで歩こう湯歩会 (参加者68名)



京都府立植物園にて